

肥前の古武道 — タイ捨流の世界 —

講師 元熊本県錦町教育委員長 渋谷 敦さん
演武・講習 タイ捨流剣術師範 山北 竹任さん
同 木野 敬夫さん

『肥前の古武道展』開催期間中の10月19日に、郷土文化講座を開催しました。佐賀城本丸歴史館を会場として、元熊本県錦町教育委員長の渋谷敦さんに講演を、タイ捨流剣術師範の山北竹任さん・木野敬夫さんに演武と講習会をしていただきました。

講演「肥前の古武道

まる め くらんのすけ

—丸目蔵人佐と肥前におけるタイ捨流—

1 タイ捨流剣術とは

タイ捨流剣術は、肥後人吉の丸目蔵人佐という人物により創始された剣術の流派です。タイ捨流の「タイ」には「体」「待」「太」等の意味があり、「すべてを捨てて刀身一本に絞る」ために仮名が用いられています。この流派は、徳川将軍家の御家流として有名な新陰流を基礎としており、九州で盛んに行われていました。

2 丸目蔵人佐について

タイ捨流を創始した丸目蔵人佐は、天文9年(1540)に肥後国八代に生まれました。京で新陰流の上泉伊勢守信綱の弟子となり、足利将軍の御前で伊勢守とともに剣の腕を披露しています。永禄10年(1567)に新陰流の免許皆伝を受けましたが、その後、独自の工夫を加えてタイ捨流を創始しました。晩年は人吉を拠点としながら九州一円にタイ捨流を広め、寛永6年(1629)に89才で亡くなっています。

3 肥前におけるタイ捨流

肥前には、慶長～元和年間(江戸時代初期)に、丸目蔵人佐が自ら訪れ、武雄で木嶋藤左衛門・同刑右衛門、佐賀で松平雪窓・遠藤小弥太らに相伝しました。丸目蔵人佐の人柄か、タイ捨流の内容が佐賀の土壌にマッチしたのか、肥前では最も盛んな剣術流派となりました。幕末には十代佐賀藩主鍋島直正もタイ捨流に入門しています。



演武「タイ捨流剣術の奥義」 講習会「タイ捨流剣術指南」

渋谷敦さんの講演に続いて、独特の動きをもつタイ捨流の「型」の中から4種類を、山北竹任さん・木野敬夫さん、さらに当日飛び入りで参加していただいたタイ捨流師範の方に演武していただきました。

講習会では、実戦的なタイ捨流の動きの中から現代の剣道に応用できる技について、佐賀東高校及び佐賀学園高校の剣道部の生徒15名に熱の入った指導をしていただきました。

(文責:佐賀県立図書館)



古文書の紹介(10)

御側おそばの出納簿しんしゅうを新収

郷土調査担当では、郷土に関する資料を幅広く調査・収集し、貴重な資料の散逸や破損を防止するよう努めています。収集した資料を保存し、活用することで、佐賀県の学術、文化の発展に寄与することを目的として業務を行っています。

今回は、新収の明治元年の「御上京御手許御整物控」を紹介します。

『御上京御手許御整物控』

この資料は、平成19年度に収集した資料で、袋綴の横帳です。明治元年(1868)末～2年にかけて、大坂・京都・東京などで十代藩主直正の身近な出納を記録した資料です。表書きに「明治元年(1868)辰十二月より 御上京御手許御整物控 野田存ぞん」とあります。資料の中に「十二月十一日 於大坂」「十二月廿四日 於京都」という記載がありますが、『直正公御年譜地取』によれば、直正は明治元年(1868)11月30日に佐賀を出発し12月11日に大坂に到着、その後12月24日には京都にいたようです。この記録者は直正の側近であったと考えられ、直正に同行していたと思われる記述があります。

始めに右のように「御預り金(収入)」を記載し、次に「御整物(支出)」には日付、金額、費目に分けて記録しています。費目には、手まり、羽子板、お年玉、銘酒、梅漬、陶器、西洋事情、明治月刊、真鍮しんちゆうたらい、薄様うすよう・筆道具、葉代、茶代、食事代、天王寺伽藍見物料などがあり、「但し殿様へ」「大御前様へ」と細かく記録しています。

右の資料の中に「精煉方」という記載があります。精煉方とは、直正によって設けられた幕末佐賀藩の理化学研究工場です。佐野常民を中心に石黒寛二かんじ、田中久重ひさしげなどなど蘭学者を集め、領内に産業開発の一部として蒸気船、機関車の模型を試作、1856年(安政3)に雷管を、1861年(文久元)に火薬を製造しました。1863年にはアームスト

ロング式野砲を製作したといわれています。明治元年には、戊辰戦争や明治改元があり、明治2年1月には、薩長土肥の四藩主が連署して版籍奉還を政府に願い出ています。このような動乱期における直正の行動がうかがわれる大変珍しい資料です。

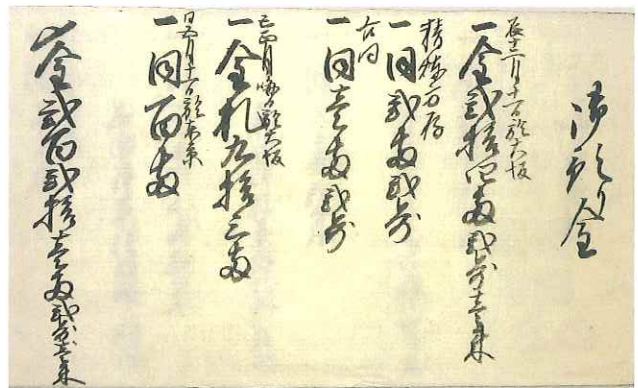
【参考資料】

『佐賀県大百科事典』(佐賀新聞社/刊)

『佐賀県近世史料』第1編第11巻

(佐賀県立図書館/刊)

『鍋島直正公伝』第6巻(侯爵鍋島家編纂所/刊)



『御上京御手許御整物控』
(図341)冊子文書 13.9×38.7cm

御預り金	辰十二月十二日於大坂
一 金式拾四兩式歩	
精錬方存	
一 同式兩式歩	
右同	
一 同壹兩式歩	
巳正月晦日於大坂	
一 金札九拾三兩	
同五月十一日於東京	
一 同百兩	
〆金式百式拾壹兩式歩	

解読文(※上の画像を解読したものです。)